

東京 2020 に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る  
ワーキンググループ（第 1 回）

議事概要

1. 日時：令和 2 年 1 月 31 日（金）14：00～15：00

2. 場所：中央合同庁舎第 4 号館 4 階 全省庁共用第 2 特別会議室

3. 出席者：

河村 直樹 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会  
推進本部事務局企画・推進統括官

【座長】

山本 要 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会  
推進本部事務局参事官

【構成員】

奥田 修士 消防庁消防・救急課課長補佐 ※

林 達郎 外務省東京オリンピック・パラリンピック要人接遇事務局次長

野口 航 厚生労働省医政局地域医療計画課救急・周産期医療等対策室  
救急医療対策専門官 ※

神ノ田 昌博 厚生労働省健康局健康課長

平泉 洋 観光庁参事官（MICE 担当）

野村 竜一 気象庁総務部企画課長

東 利博 環境省水・大気環境局大気環境課大気生活環境室長

太田 志津子 環境省大臣官房環境保健部環境安全課長

原 陽一郎 東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部運営課長 ※

長谷川 悠希 東京都オリンピック・パラリンピック準備局計画推進部  
持続可能性調整担当課長 ※

吉迫 武 東京都環境局総務部署さ対策担当課長 ※

海老原 勉 東京都環境局地球環境エネルギー一部環境都市づくり課長 ※

鈴木 和典 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課長 ※

小林 千寿 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
ゲームズ・デリバリー室暑さ対策推進担当部長

【オブザーバー】

本田 晃 北海道環境生活部東京オリンピック連携局競技開催支援担当課長 ※

三浦 菜々恵 宮城県震災復興・企画部オリンピック・パラリンピック大会推進課  
主事 ※

堀江 正樹 福島県文化スポーツ局オリンピック・パラリンピック推進室主任主査 ※

柿嶋 正博 茨城県県民生活環境部オリンピック・パラリンピック課課長補佐 ※

今村 聡志 埼玉県県民生活部オリンピック・パラリンピック課  
ボランティア担当主査 ※

前田 敏也 千葉県環境生活部オリンピック・パラリンピック推進局開催準備課長 ※  
高屋 満 神奈川県スポーツ局オリンピック・パラリンピック課調整グループ  
グループリーダー ※  
古屋 公将 山梨県オリンピック・パラリンピック推進局  
オリンピック・パラリンピック推進課副主査 ※  
長野 恭子 静岡県文化・観光部オリンピック・パラリンピック推進課主任 ※

※代理出席

#### 4. 議事要旨

- ・冒頭、河村統括官より挨拶。

##### 【河村統括官】

本日はご多忙の中、「東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係るワーキンググループ」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、東京大会に向けた暑さ対策に日々ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

いよいよ大会本番の年を迎えました。昨年5月30日に開催した「東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る関係府省庁等連絡会議」では、大会本番前の最後の夏を迎えるに当たり、「関係機関がしっかりと連携して暑さ対策の試行と検証を行い、その結果に基づき対策の強化を図っていく必要がある。」との考え方が確認されています。

本ワーキンググループは、昨夏の試行の結果を関係機関で共有し、大会本番に向けて、関係機関が連携して強化すべき取組の検討を行うため、「東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る関係府省庁等連絡会議」の下に、新たに設置したものです。

本日の会議では、昨夏の試行の結果等に基づき、大会本番に向けて強化すべき課題を確認したいと考えております。また、本日は、競技会場等が所在する関係自治体もオブザーバーとして参加していただいております。各自治体のご意見も伺いながら、暑さ対策の一層の強化を図って参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

- ・議事1について、事務局より資料1に基づき、「東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係るワーキンググループの開催について」を説明。

- ・議事2について、東京都、組織委員会より資料2に基づき、「昨夏の試行の結果について」を説明。

##### 【東京都】

ビーチバレーボール、ボート、トライアスロン、ホッケー、マラソンの5競技において、ハード・ソフト両面で暑さ対策の試行を実施。試行の主な検証結果として、ハード面では日除けと送風機等を組み合わせた対策やウォーターサーバーの設置、ソフト面では「体を冷やすグッズ」等の効果が大きいことが確認された。今後の対応としては、専門家からの意見も踏まえ、ハード面では重点箇所におけるテントによる日陰の十分な確保や送風機などと組み合わせた効果的な対策の実施、ソフト面では「体を冷やす」「風を当てる」グッズを配布し、情報提供ツ

ールとしても活用することとしている。

医療・救護面においては、コンテナやDMATカーを活用した救護所の設置を行い、路上競技沿道における車両やテントを活用した医療救護活動等が有効であることが確認できた一方、交通規制下では救急搬送に工夫が必要なことや、救護所の表示がわかりにくい等の指摘があった。今後の対応としては、想定される観客数やラストマイルの距離などの各会場のリスク分析とテストイベントの結果を踏まえて、より効果的な救護所の設置方法等を検討することとしている。

#### 【組織委員会】

東京都と同じく5競技を中心に昨夏のテストイベントにおいて暑さ対策の試行を実施。アスリート向けには空調付きアスリートラウンジの設置等の基本的な暑さ対策に加え、競技特性に応じた暑さ対策を実施。情報発信においては、Webサイトのテストイベントページでの注意啓発情報の発信や国と連携したアンケートを実施。観客向けには疑似PSA待機列によるオペレーションの検証やファーストレスポnderの巡回、暑さ対策グッズの配布等を実施。スタッフ向けには休憩の取り方の検討や暑さ対策グッズの配布等を実施。

試行の結果や課題を踏まえ、競技別暑さ対策や訪日外国人向けの効果的な情報発信、日射遮蔽の為の追加対策や特例措置として1人1本750mlまでのノンアルコール飲料の持込を許容することを決定。また、スタッフへの啓発強化や休憩の取り方の再検証などについて検討中。

今後の対応として、アスリート向けにはIFへの意見紹介を踏まえた対策の強化を図る。観客向けには情報発信として2月下旬に大会時向けに切り替え予定の大会公式ウェブサイト、5月末以降配信開始予定の大会公式モバイルアプリにて暑さ対策情報も順次発信予定。また、会場においては日除けテントや仮設給水栓の増設に向けた検討を行っている。スタッフ向けにはグッズの配布や意識醸成のための研修の実施を通じて、対策に取り組む。

なお、会場が東京から札幌に移転したマラソン・競歩の暑さ対策については、札幌市等と連携しながら対策の強化を進めていくこととする。

以下質疑応答あり。

#### 【内閣官房】

専門家からの意見を踏まえてテントの増設を図るにあたり、東京都として設置基準等があれば教えてほしい。

#### 【東京都】

テントの設置については会場ごとに条件が異なるため、一律の基準を定めることは難しいが、特にラストマイルの距離が長い会場についてはテントによる休憩所の設置等を検討している。

#### 【福島県】

組織委員会で暑さ指数の発信を検討しているということだが、自治体の都市ボランティアを通じて観客に情報を発信していきたいと考えているので情報を共有してほしい。

#### 【組織委員会】

組織委員会としては環境省のデータも活用して Web サイトでリンクを掲載する等を考えている。また、他の方法でも連携できる可能性はあると思う。

#### 【内閣官房】

東京都の検証結果やノウハウを東京都以外の自治体にも共有し、組織委員会と連携して対策の強化を進めていってほしい。

- ・議事 3 について、関係府省庁等より資料 3 に基づき、「関係府省庁等における取組について」について説明。

#### 【消防庁】

7 言語に対応した「救急車利用ガイド」を作成し、消防庁 Web サイトや訪日外国人旅行者向け災害時情報提供アプリ「Safety tips」へ掲載。また、「救急ボイストラ」の全国の消防本部への導入や、音声によらない 119 番通報、電話通訳センターを介した三者間同時通訳について、2020 年までの導入を目標に、消防庁次長通知の発出や全国の消防長会の各支部総会などにおいて働きかけを行っている。

オリパラに向けては、各開催地における消防・救急体制として、管轄の消防本部管内に救急車を増強配備する等して万全を期していく。

#### 【外務省】

訪日前の外国人を対象に、145 以上の在外公館の Web サイトを通じて、気象庁の熱中症ポータルサイトや環境省の熱中症予防情報サイト、リーフレット、観光庁の「Safety tips」等の情報を発信。今後も組織委員会や関係省庁が作成するコンテンツを活用して情報発信を強化していく。

#### 【厚生労働省】

熱中症に係る多言語のリーフレットや障害者向けリーフレットの作成に加え、自治体を通じた情報発信や啓発活動の推進、SNS を通じた注意喚起などを実施。今後はリーフレットの更なる多言語化や障害の特性に応じた啓発資材の作成などを行う予定。

救急医療体制については、重症度に応じた救急医療体制の整備が必要であることから、各都道府県の実情に応じた医療計画を作成する等救急医療体制についても整備するように努めてきた。オリパラ開催時も、平時の医療体制を確保しつつ関係者の受入体制が確保できるよう、関係省庁と連携しながら支援を進める。また、救急医療体制以外にも訪日外国人受入の強化のため受入医療機関リストの作成等の対応を進める。

#### 【観光庁】

日本から出国する外国人に対して、「訪日外国人旅行者の夏の暑さに対する意識調査」を昨夏に実施。アンケートの結果、回答者の 9 割が「東京の夏は蒸し暑かった」と回答したほか、得られると良い情報として、東京の気象情報に加えて「涼める場所」の情報という回答が多かったことを確認。

厚生労働省と連携して作成している「外国人患者を受け入れる医療機関リスト」については、今後の更なる充実に向けて整備を進める。また、「Safety tips」については昨年 9 月より対応言語を 4 か国語から 11 か国語に拡充するとともに、今年度中に 3 か国語追加予定。

## 【気象庁】

昨年の東日本の年間平均気温は、統計開始以来、過去最高になった。世界全体の年間平均気温も、統計開始以来、過去2番目に高かった。

気象庁としては、昨年6月から2週間先までの気温予報や早期の天候情報の提供を開始。また、今年3月からは詳細な気温分布予報を提供開始予定。このように、2週間前からリアルタイムまで時点ごとに様々な気象情報を発信している。

訪日外国人に対しては、気象庁Webサイトにて、気象用語等の11カ国語分の「多言語辞書」を公開及び防災気象情報を11カ国語で提供開始し、今後それぞれ14カ国語に拡充予定。また、オリパラに観戦に訪れた観客が必要な気象情報にスムーズにアクセスできるよう、大会観戦支援ポータルサイトを昨年7月に開設した。

## 【環境省】

「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン」について、昨夏のテストイベントにおける暑熱環境測定結果などを反映した改訂版を来年度はじめに提供予定。

訪日外国人に向けた情報発信としては、熱中症に関する資料を多言語で作成しWebサイトに掲出するほか、熱中症の啓発情報が掲載されたうちわを作成し、大会期間中に関係者と連携して配布する予定。また、Webサイトにおいて、訪日外国人が感じる日本の暑さに関する不安を払拭するような暑さ対策の取組についても発信予定。

昨夏には、訪日外国人に対して成田空港でアンケートを実施。熱中症の認知度が日本人に比べて外国人には低いことや、求めている情報が異なることなどが判明したことから、今後の対策にもアンケートの結果を反映させることを検討中。

熱中症への配慮が必要な障害者に対しては、有識者に対するヒアリングを実施し、得られた知見を「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン」に盛り込む予定。

そのほか、今年度からは全43競技会場周辺のWBGTを測定し、関係者に提供することで、暑さ対策に活用してもらっている。

## 【組織委員会】

熱中症への配慮が必要な障害がある方への対応として、優先的に入場させるアクセシブルレーンの設置や障害の特性に関するスタッフの研修、会場における対応態勢の整備、様々なチャネルを通じた情報発信、視覚・音声による情報が得にくい方に配慮した表示やアナウンス、補助犬の暑さ対策等について検討中。補助犬については、犬を入国させるための期限である6ヶ月前が迫っているため、海外への周知を行っているところ。

訪日外国人に対しては、様々なチャネルを通じて各会場周辺の気象情報やクールスポット等の情報を多言語で発信することとする。また、情報発信にあたっては、関係府省庁に対して、①訪日外国人への接点の増加、②発信内容の更なる充実化に当たり協力を依頼したい。

ラストマイルにおける暑さ対策については、都内や都外会場において、関係自治体やパートナー企業と連携したクールスポットの開設や関連情報のアプリでの表示等について検討中。特に、都外会場においては、シャトルバス乗降場での日除けテント設置や携帯型ミスト噴霧機によるミスト噴霧などを検討中。今後も関係自治体と連携を深め取組を強化していく。

以下質疑応答あり。

【内閣官房】

通常のボイストラは試験用サーバーを利用しているため、アクセスが集中するとダウンする可能性があるというが、「救急ボイストラ」は別のサーバーを利用しているのか。

【消防庁】

サーバーについては確認して後日お伝えする（※）。「救急ボイストラ」については、速報性がなく、スマホを介して行うことで搬送が遅れてしまうこともあるので、三者間同時通訳等の別のツールと併せて利用する等総合的に対策を進めている。

※「救急ボイストラ」も通常のボイストラと同様試験用サーバーを利用

【内閣官房】

環境省においては、訪日外国人が感じる日本の暑さに関する不安の払拭に向けて、クールスポットの情報等を紹介するような仕組みを組織委員会や観光庁、外務省などと連携しながら進めてほしい。

【環境省】

訪日外国人への情報発信強化について、関係府省庁等と連携しながら検討を進める。

【内閣官房】

観光庁が昨夏に実施した訪日外国人に対するアンケートでは、「涼める場所」の情報が得られると良いという結果があったが、ラストマイルや沿道におけるクールスポット等の情報について、東京都や関係自治体と連携しながら、アプリ等で広く情報発信してもらえると良い。

- ・ 議事4について、事務局より資料4に基づき、「大会本番に向けて強化すべき課題について（案）」について説明。了承。
- ・ 議事5について、関係自治体の取組について情報共有。
- ・ 閉会にあたり、河村統括官より挨拶。

【河村統括官】

本日の会議では、皆さんで昨夏の試行の結果を共有し、大会本番に向けて充実した説明、議論を頂き大変感謝しております。

大会本番まで残り半年を切りました。暑さ対策全般について、アスリート、観客だけではなく、スタッフの視点に立って改めてご確認いただき、万全な体制で大会本番を迎えたいと思っています。

引き続き、関係者と連携を密にし、一丸となって暑さ対策に取り組んで行くことをお願いし、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。

- ・ 閉会